

～あなたはどのように願っていますか？～

私たちの心には、感情的になることがちょくちょく起こります。この感情的になることを制御して感情をしっかりと生かさなければいけません。感情的＝感情ではありません。感情がなければ人を愛することはできないし、喜ぶこともできません。どうして感情的になるかという、自分が傷つけられたからです。相手を排除して否定するのです。そして、どうしてこんなことをしてしまうのかという悩みがあるからです。悩むと必ず心が騒ぎます。悩んでいる間は何もしてないから、心を騒がせて悩むことは、私たちにとってラクな方法です。私たちにとって大事なことは、何もしてないのではなくてどれだけ考えるかです。神さまの前に、悩むのではなくて考える必要があります。悩んでも何も得られません、考えれば答えが得られます。これを神さまとやれば強いです。人間だけが考えるようにつくられた生き物です。悩むことは感情です。だから私たちがしなければいけないことは「ただ信じる」です。考えて答えを出したら「ただ信じる」…これだけです。神さまの考えが私たちの考えになれば強いです。私がやるのではない、神さまがやるのだと考えて行えば必ず意味のあることになります。人は裏切ったり裏切られたり、傷つけたり傷つけられたりします。聖書にも「鼻から息をするものを頼るな(イザヤ22:2)」と書かれています。神さまは「私についてきなさい」と教えてくれています。それなのに自分だけが裏切られた・傷つけられたと記憶してしまうから悩みのどん底に落ちてしまうのです。だから私たちは神さまを信じるのが力になります。神さまを信じる人は、神さまと良い関係なので隣人がたとえ裏切っても、もう一度神さまがその隣人を信じようとするなら、自分も信じようします。なぜなら神さまは自分が隣人に必要なように、隣人も自分にとって必要なものとしてつくられているのです。私たちの存在が尊いのです。自分の存在が高価で尊いと信じていれば隣人のことも高価で尊いと分かるのです。それが分からない理由は、自分はダメだと思っているからで、だから隣人も否定するのです。聖書にも「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。(イザヤ43:4)」と書かれています。これを信じるか信じないかです。私たちには目に見えないものを信じる力があります。だから、**①悩みを委ねる**・頭で理解しないようにしましょう。「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。しかし、人は、神が行なわれるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。(伝道者の書3:11)」とあります。永遠を求める人間はいつまでも永遠を求めて研究していきます。でも大切なことは科学ではなく、人の心や環境を理解することです。科学は特定の一部しか解明しませんが、神さまは全てを見て全体を考えます。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。(ヨハネの福音書14:1)」「わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい(ヨハネの福音書14:11)」もしも言葉が信じられないなら自分の過去を振り返ってください。神さまがどれだけの恵みを与え、感謝のこころを与えてくれ、奇跡を体験させてくれているのか分かるはずです。たとえ辛いことがあったとしても、それが肥やしになって私たちを通した奇跡に繋がるのです。「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。(詩篇119:71)」です。私たちは、神さまを体験して知っています。ですから私たちは神さまの前にただ信じるだけです。そして、**②試してガッテンしましょう**。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。(ヨハネの福音書14:1)」「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。(ヨハネの福音書14:6)」「わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行いうわぎを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。(ヨハネの福音書14:11・12)」とあります。私たちが信じて行えば、イエス様がやることよりも大きなことをすると語られています。だから私たちが信じて行えば絶対にうまくいきます。うまくいかない理由は、恐れて実行しないからです。なぜ恐れるのかと言えば、悩むからです。悩んだ挙げ句、疲れて実行しないのです。でもやってみなけりゃ分かりません。ですから必ず実行してください。ためしてガッテン！だから神さまにせよと語られたことを実行しましょう。だから**③神さまとの約束したことを果たしていきましょう**。神さまに言ったこと、決断したことを実行していきましょう。昨年、神さまと約束して果たせなかったことがあったかも知れません。それは主にあって完全に捨て去って新しく神さまと約束しましょう。そしてそれをこの新しい年に必ず実行しましょう。聖書には「もしあなたが〇〇するなら～」と書かれています。でもこの「〇〇する」は、神さまが私たちにさせたくて強要しているのではなく、私たちが自ら進んで〇〇すればうまくいくのです。神さまは全体を見通された方なので、このことも知っておられます。約束と実行は同じです。約束というのは、私たちが種を蒔いて刈り取るまでの間私たちが面倒をみる行為と同じです。約束というのはとても小さい事の積み重ねです。もしかすると1つできないことがあるかも知れません。でも神さまは、アドバイスをくれ、助け手を与えて、その約束を果たせるように助けてくれます。だから途中で止めないでください。約束は絶対に私たちに実を实らせません。約束は条件ではなく方法です。神さまは、私たちを通してことを行おうとしています。そしてこの約束を果たす方法は「戦う」です。神さまと結んだ約束を戦って成し遂げようとしてください。この成し遂げようとするをみんなで助け合うのです。神さまは私たちの願いを必ずかなえてくれます。神さまは私たちの願いを私たちが願う前からご存じです。主を信じる者、私たちは何をしても栄えりと聖書に書いてあります。クリスチャンは世の中の人と同じでは意味がありません。「なんかちょっと違うな」と思ってもらえるようにしましょう。この「ちょっと」が1年経てば大きな神さまの祝福になります。だから今年は祝福された1年を目指していきましょう。(要約者：行司 佳世)